

川内・高浜原発を再稼働させない！ 東京集会&デモ

プログラムと資料

18:00 開会

司会： 木内みどり（女優）

よびかけ人から：鎌田 慧（ルポライター）

トーク： 佐高 信（評論家）

川内原発再稼働阻止に向けて

野呂正和（川内原発増設反対鹿児島県共闘会議事務局長）

高浜原発再稼働阻止に向けて

宮下正一（原子力発電に反対する福井県民会議事務局長）

アピール： 経産省前テントひろば

デモの案内

19:45 デモ出発

デモコース

豊島公会堂～豊島区役所～東口五差路左～南池袋公園前左～サンシャイン前～豊島公会堂前公園（解散）

所要時間約 25 分

今後の主な予定

- 3月8日（日）0308 NO NUKES DAY 反原発★統一行動 ～福島を忘れるな！再稼働を許すな！
13:00～大集会・日比谷野外音楽堂／14:00～巨大請願デモ／15:30～17:00 国会前大集会
呼びかけ：首都圏反原発連合/さようなら原発 1000 万人アクション/原発をなくす全国連絡会
- 3月14日（土）原発の福島を！県民大集会 11時開場 あづま総合体育館
- 3月28日（土）フクシマを忘れない！さようなら原発 大講演会
18:45 開場、19:00 開演 新宿文化センター
- 国会前緊急抗議行動 川内原発再稼働許すな！
試運転の日 12:00～13:30 国会・衆議院第2議員会館前
詳細はホームページ等でご確認ください。 <http://sayonara-nukes.org/> （「さようなら原発」で検索）

主催：「さようなら原発」一千万署名 市民の会

内橋克人 大江健三郎 落合恵子 鎌田慧 坂本龍一 澤地久枝 瀬戸内寂聴 鶴見俊輔

さようなら原発 1000 万人アクション実行委員会

東京都千代田区神田駿河台 3-2-11 連合会館 1F 原水禁気付 ☎03-5289-8224

Email:sayonara.nukes@gmail.com <http://sayonara-nukes.org/> （「さようなら原発」で検索）

川内原発再稼働を目前にして

=まだ決まったわけではない=

川内原発増設反対鹿児島県共闘会議 事務局長 野呂正和

川内原発をめぐる経過

1号機は1984年7月、2号機が1985年11月に稼働、それぞれ89万kwを発電。

川内原発はこれまで様々なトラブル、九電のトラブル隠しや通報遅れ。

3号機増設、県民の世論で知事に任期中の増設を凍結させた。

2013.7.8 新規制基準 適合審査申請

2014.8.25 巨大噴火専門家委員会

9.10 審査書発表 (適合確定)

10.9~ 適合審査説明会 5か所(規制委員会)+1回(内閣府) (質疑30分)

10.28 薩摩川内市臨時本会議 再稼働陳情採択

11.5~7 臨時県議会 11.6 原子力特別委員会 11.7 知事会見「やむを得ない」

12. 九電「工事計画」補正書提出は1月中に延びている

再稼働は、春以降か? (当初 2014.6としていた)

川内原発の課題

① 避難計画

国の原子力災害対策指針は、「30^キ圏避難計画の立案が必要とし、要援護者に対して配慮しなければならない」。

県は、避難者・避難車両などのスクリーニングや除染、要援護者への配慮や福祉避難所の設置、放射能汚染水や汚染物資の処理・管理なども行わなければならない。その上で要援護者等の避難で、病院等医療機関及び介護保険施設、障害者支援施設等の社会福祉施設の**管理者に避難計画を作成**するよう求めている。

内閣府は9月1日になって5人の職員を県と市に派遣。避難計画の充実を図るという。

知事は風向による**避難調整システム(30^キ圏内500ヵ所のデータベース化)**を活用するという。

67のモニタリングポストは風向予測情報にはならない。避難住民はさまようだけだ。

*避難者の日常生活を送るための飲食物や寝具等の確保も全くない

*風下方向に避難

*「救護所」が関所になって避難が遅れる危惧

*地震や津波など複合災害による通行不能

*学校の児童等の保護者への引き渡しのルールや避難の交通手段

② 知事発言

★6月13日、半径10~30^キ圏は「現実的ではない」と記者会見で発言。「時間をかけて空想的なものは作れるが、機能しない」とも。

★9月議会での本会議、地元同意は「薩摩川内市と県で十分」。

★審査書案が出た頃、政府に対して「国が安全性を十分に保証」と再稼働を求める文書を

提出するよう求めた。9月12日、エネルギー長官が小淵経産大臣名の文書を渡した。

「万が一事故が起きた場合、国は関係法令に基づき責任をもって対処する」

★11月7日、再稼働容認の記者会見

https://www.youtube.com/watch?v=NgCEZs4dvQA&feature=player_embedded

審査を受けた原発の炉心等がどう変化をするかは、結構時間があるので、ゆっくり動けばいい。制度設計は100万年に1回の事故を想定すればいい。その時の川内は5.6テラベクレル。炉心から5.5キロの所は毎時5マイクロシーベルトです。20で初めて避難ですから動く必要がない。家の中に居てもいい、普通の生活をしていてもいい、その程度の放射能です。5マイクロシーベルトというのは1週間ずっと浴び続けて胃の透しの3分の1ですね。そこまで追い込んだ制度設計をしているので、時間もあるし、避難計画が実際ワークするケースもほとんどないだろうし、川内原発はあと10年だと考えると、だいたいそれでカバーできるのかなと思っています。

まるで再稼働したら国民の命を守れないかのようなプロパガンダが大に行われています。しかし、規制委員会というあれだけ素晴らしい方々が集った組織が安全性を追求したんです。よくぞここまでのことをやったな、と思います。もし福島みたいなことが起こっても、放出量は5.6テラベクレル。5.5キロの所は毎時5マイクロシーベルト。もう命の問題なんか発生しないのですよね。私はそちらの方を信じます。全体を見たときにどういった判断をするか。原発の稼働の問題ではなく、我が国全体をどう運営していくかだ。県段階では県と事業者が一体となって動くしかない。

③カルデラと巨大噴火

2万8千年前に始良カルデラの破局的噴火。県土にシラス台地。火砕流は川内原発近くで確認。破局的噴火が川内原発運用期間中や使用済み核燃料管理の10万年の間に起こる可能性。

専門家は、「巨大噴火は低頻度とはいえリスクは必ずある」、「巨大なカルデラ噴火は現在の科学では予知が難しく、噴火までの時間は全く分からない」と指摘。

九電は運用期間中における破局的噴火の可能性は十分低いとし、規制委員会も了承。モニタリングによって破局的噴火も予知でき、888tの使用済み核燃料を運び出すとしている。

*再稼働すると使用済み核燃料は増。1290tがキャパ

*使用中燃料は運び出すまでに5年かかる。144t

*使用済み核燃料の運び出しの「年数も搬出先もわからない」と答えた。

*青森に運び出す(30日、原発特別委員会)。青森もいっぱい。

*カルデラの監視はどこもやっていない。火山はやっている。GPS等監視=九電

*搬出が済まないうちに巨大噴火になる？。

④上からのアクシデント

航空機（アメリカ軍は現実に飛行）・ミサイル・隕石などに無防備。

九電も規制委員会も可能性は極めて低い。

*テロやミサイルでの危険性は高くなっている。＝集団的自衛権

*アメリカなどは、原子炉の二重ドーム

*北朝鮮のミサイル発射…国際海事機関・国際民間航空機関に事前通告

現在、再稼働に向け施設の補強などが行われているが、重要免震棟の完成は 2015 年度中。甕海峡などに存在する活断層評価も九電と文科省の地震調査研究推進本部（「推本」）の見解とはかけ離れていて、620 ガルという地震動も信頼性は低い。（1340 ガル）。地震や津波の危険性は高い。さらに他の原発にはない 5 つ以上のカルデラの危険性も専門家から指摘されている。

再稼働への懸念

避難計画の実効性はない。特に要援護者。

☆いちき串木野市と日置市議会が、知事に「地元同意を求める意見書」を採択。

☆始良市では、6 月議会で「再稼働反対と廃炉を求める陳情」を反対 1 で採択。

① いちき串木野市の安全協定と署名活動

いちき串木野市及び阿久根市の「住民の安全確保に関する協定書」は、「九州電力による事前説明の内容について意見を述べることができ、九州電力は誠意をもって対応する」ことが記されている

そこで市民団体は「緊急署名の会」を立ち上げ、1 か月半にわたって署名に取り組んだ。6 月 22 日までに住民 3 万人の半数を超える 16,566 筆を達成し、その後も活動をしている。

② 鹿児島県議会対策

☆6.13 県庁前集会に向けて、3.11 実行委員会は県議会議員への公開質問を行った。

①要援護者の避難計画は十分か？ ②要援護者は避難できか？ ③避難計画と川内原発再稼働は関係があるか？ ④県議会での対応

自民党と公明党はすべて「わからない」と回答した。

☆9 月県議会では原発公開質問の会、県段階 4 人、選挙区段階で 205 人

自民党「県議会として原子力安全対策等特別委員会を中心に、慎重な審議を行い、総合的な見地から判断を行ってまいりたい。」一括回答。

公開質問の会は「会派の陰に身を隠して」と痛烈に批判。

③3.11 実行委員会（ストップ川内原発再稼働！3.11 鹿児島集会実行委員会） 街頭宣伝

3.16 さよなら原発！鹿児島パレード 6,000 人

6.13 県議会「再稼働させない」行動集会 700 人 議会傍聴

9.28 ストップ川内原発再稼働！全国集会 7,500 人 自治体要請

10.30 県庁前テント広場

11.5～7 臨時県議会傍聴

1.25 「ストップ川内原発再稼働！1.25 全国集会」

④さまざまな動き

- ☆ 8.31 九州・鹿児島 川内行動 1,800人
- ☆ 公開質問を実現する会 9.6 11.20
- ☆ 「かごしま「風船飛ばそう」プロジェクト 4.6 7.28 10.26
- ☆ 審査書案のパブコメの取り組み 1.7件
- ☆ 裁判闘争 九州川内訴訟 2,479人、 仮処分=近日中に判決
- ☆ 山之口自治会が再稼働反対を決議、他の自治会へ広がり
- ☆ 52円の仲間たち…再稼働賛否の自主投票
- ☆ 久見崎海岸にテント村(経産省テント村)
- ☆ 全国からのメール・ハガキ
- ☆ 住民説明会・・・ネット中継の要求、事前学習会、説明会での発言
- ☆ 3.11 実行委員会で「緊急署名」の取り組み定期 2.23、まで 九電社長に提出

再稼働への動き

- ★認可時期は不明であるにもかかわらず、川内原発は全国の原発のトップを切って再稼働となりそう。
- ☆総選挙での訴え、「まだ止められる！川内原発再稼働」
- ☆規制委員会、「工事計画」の不備を指摘
- ★工事計画認可と保安規定認可変更は、「補正申請書」が一部しか提出されておらず。
九電に対する指摘が多く、東京で200人体制で作業するも…
- ★認可書類提出～使用前検査・・・1, 2ヶ月を要する。
- ★再稼働の時期は春以降。

資料

- ★原子力市民委員会（座長：吉岡 斉） 10.6 県庁

信用されていない電力会社や規制委員会・規制庁のもとでの再稼働は論外

100万炉年に1回の事故！？

スリーマイル事故・チェルノブイリ事故・福島事故=3200炉年に1回の事故

世界に430基の原発 7年後には事故が起こる計算

原発の新規性基準は「世界最高」???

⇒日本の原発を動かし続けるための妥協点の基準でしかない

規制基準をクリアするための10の技法

- ① 福島の事故原因を明らかにしない
- ② 立地審査指針の廃止（コアキャッチャー、航空機落下の二重ドーム）

《コア（core）は炉心の意》原子炉で炉心熔融事故が発生した場合に備えて、原子炉格納容器の下部に設置される装置。熔融した炉心燃料を閉じ込めて冷却し、放射性物質の拡散を抑制する。炉

心溶融物保持 装置。

- ③ 原子炉施設のみ限定（避難計画を外す）
- ④ 一定期間内の整備で良い…フィルターベント装置（5年以内でよい）、免震重要棟
- ⑤ 規制情報の黒塗り開示（商業機密） イスラエル：マグナ BSP 社の独占情報
- ⑥ 基準をできるだけ甘く（事業者の許容範囲のコストで）
- ⑦ 規制基準の適用を事業者に委ねた（基準地震動 620 ガル）
- ⑧ 評価手法のごまかし（過酷事故評価のクロスチェック分析を放棄）
- ⑨ 規制基準が抽象的表現…シロ・クロをつけない
- ⑩ 適合性審査（審査書）で実質的な審査をせず、後の「工事計画認可」「保安規定認可」に丸投げ。

知識

*放射線管理区域 ($0.6 \mu\text{Sv/h}$: 3月あたり 1.3mSv) を超える放射線区域のこと

*使用済み核燃料 全国で 17,540 t

*プルトニウム 47 t 日本が核兵器所有の懸念 4,000 発分（長崎型原発）

高浜原発の再稼働をゆるすな !

原子力発電に反対する福井県民会議 事務局長 宮 下 正 一

本日の集会にお集まりいただきました皆様、こんばんは。

私は、原子力発電に反対する福井県民会議の事務局長を昨年6月より選任させて頂いています宮下正一と申します。

1、福井の原発の歴史

福井県で原発建設の歩みが始まったのは、1957年4月17日に福井県原子力懇談会が結成されてからになります。

そして、13年後の1970年3月14日に福井で初めて営業運転を始めたのが、日本原電敦賀1号機でした。

時を同じくして関西電力美浜1号機が、11月28日に営業運転を始めました。

以来、次々と原発が建設され、現在では15機(1機は、廃炉作業中)にもなってしまったのです。

これだけ狭い地域に原発が集中している事と沸騰水型、加圧水型、新型転換炉、高速増殖炉と種類も多く、世界でも類を見無い集中地であり、まるで原発展示場化しているのです。

	名 称	会 社 名	炉の形式	発電料	運転年
1	敦賀1号機	日本原子力発電	沸騰水型軽水炉	35.7万kW	1970年
2	2号機	同上	加圧水型軽水炉	116万kW	1987年
3	ふげん	日本原子力研究開発機構	新型転換炉	16.5kW	1978年
4	もんじゅ	日本原子力研究開発機構	高速増殖炉	24.6kW	1995年
5	美浜原発1号機	関西電力	加圧水型軽水炉	34kW	1970年
6	2号機	関西電力	加圧水型軽水炉	50kW	1972年
7	3号機	関西電力	加圧水型軽水炉	82.6kW	1976年
8	大飯原発1号機	関西電力	加圧水型軽水炉	117.5kW	1979年
9	2号機	関西電力	加圧水型軽水炉	117.5kW	1979年
10	3号機	関西電力	加圧水型軽水炉	118kW	1991年

			炉		
11	4号機	関西電力	加圧水型軽水炉	118 kW	1993年
12	高浜原発1号機	関西電力	加圧水型軽水炉	82.6 kW	1974年
13	2号機	関西電力	加圧水型軽水炉	82.6 kW	1975年
14	3号機	関西電力	加圧水型軽水炉	87 kW	1985年
15	4号機	関西電力	加圧水型軽水炉	87 kW	1985年

注・・・3のふげんは、現在廃炉作業中

2、私の運動史

私が反原発運動に関わったのは、1976年ごろに福井県評青年部の事務局長になってからだと思います。

もんじゅ第1次ヒアリングで、デモ隊の先頭に立ち真っ向から機動隊とぶつかった時とも言えます。

それ以来、県評青年部において

- ① 反原発講師団の結成と関西方面への要請行動を行う。
- ② 大飯3・4号炉増設阻止闘争を闘いぬく。
- ③ もんじゅ第2次ヒアリング阻止闘争を闘いぬく。

これらの闘いのいずれにも忘れられない思い出がありますが、以後の運動のあり方を決定づけたのが、大飯3・4号機増設阻止闘争だと思います。

この運動のきっかけは、県評青年部の反原発講師団メンバーの泊まり込み学習会でのことです。

私たちは、「もんじゅだけは運転させるな。」との思いで色々な取り組みを行っていたのですが、講師として呼び出した中嶋哲演さんから「もんじゅは分かるけれど目の前にある大飯3・4号機の問題は、どうするのですか。」との問いかけでした。

県評青年部としては、いくつもの運動を同時にすることは難しいとの声が多い中、それでは自治労青年部でやれるだけやってみようかと言うことになったのです。

しかし、よくよく考えてみると福井市から大飯町役場まで約120kmで時間にすれば、2時間半から3時間これを車で通い続けるのは大変だ。

そこで考え出したのが、

- ① 大飯町に一番近い小浜市の民宿を拠点とする。
- ② 福井から毎日2～3人が、仕事を終えてから約3時間かけてこの拠点に集まる。
- ③ 前乗り班から引継ぎを受ける。前乗り班はそれから福井に帰る。
- ④ 翌日の行動は、朝から町中の街頭宣伝を行う。
- ⑤ 翌日行う映画(テンフィート運動の商業フィルム)上映会の会場を借りる。

- ⑥ 夕方近くには、映画上映会の宣伝を行う。
- ⑦ 映画上映会を行い、原発についての話し合いを行う。
- ⑧ 不思議と連日やった会場に10数名の皆さんが集まって頂きました。

この様な事を約1か月やり続けました。

怒られたことは1回もなく、激励されたことは沢山ありました。

最後は、町議会での同意を巡っていくつかの取り組みをしましたが、残念ながら同意を許してしまいました。

自治労青年部と言ってもこのことで動ける者は、15名ぐらいでしたがみんな年休を取って参加してくれました。

私は、県職の専従役員でしたからほとんどこの民宿に張り付いていたのです。

以後の運動は、この様な形態を取って連続とか連日とかの繰り返しでした。

3、福井の反原発運動の限界点

福井県は、元々労働運動も社会運動も育ちにくい地域だったのが電力資本に見抜かれ、次々と原発建設を許してしまったのです。

この原稿を書きながら調べてみると

1970年代に9機、1980年代に3機、1990年代に3機と15基が集中して建設されたのです。

これでは、反対運動が追いつく間もないことも確かです。

言い訳になりそうですが、目の前のことを追っかけていて気が付いたら次々と建設されてしまったという思いです。

若狭の各町での反対運動も懸命に行われましたが、止める力を持つことが出来なかったのです。

日本原電1号機が建設されてから45年間にわたる反対運動は、反対運動に参加した延べ人間数やその費用は莫大なものになっていると思います。

一方、この45年間に原子力発電に関わる県民が沢山生まれたことやこのお金に群がる自治体や人、なによりもその心が蝕まれたと思います。

今では、原発関連で生活している方が本当に沢山になっているために、その方たちの生活の代替が無い限り「原発反対」と言いにくい状況が拡大してきているのです。

しかし、原発産業に関わらない方が圧倒的ですから県民の意識調査をすれば、当然の事ながら原発に反対する人は過半数を超えるのです。

これらの様に、福井県内での反対運動が大きく盛り上がり、福井県知事を揺さぶり原発の推進を止めることは極めて難しいのです。

4、地元とは

建設された土地が所属する自治体を地元と言っていますが、果たして原発ではそのように言っていてよいのでしょうか。

私の住まいは、福井県の中でも北の方にあり、高浜原発から約93kmもあるのですが、それでも「現地福井」と言われるのです。

高浜原発からこの93kmの円を描くと大阪城も入り、関西地方の多くが入ってしまうのです。

「地元福井」と言われることに大した抵抗がある訳ではないのですが、「地元」「現地」の言葉で反原発運動は福井でと言われ、福井でしか運動出来ないような感覚に陥ることになると思います。

自分の所は関係ないが、原発を止めるためには福井を変えないと福井でしか原発は止められないと思われていることが多いように思います。

若狭湾の原発群が事故の影響を大きく与えるのは、福井はもちろんですが関西地方に大きな影響を与えることになるのです。

今までの様に「地元福井」と呼び続ける運動では、原発を止めることは出来ません。

巨大な都市をいくつも抱え、人口が密集している関西地方の皆さんが自ら「若狭の原発群の地元、関西」と言えた時に原発は、止まるのです。

5、高浜原発の再稼働を止める力は何処に

巨額のお金が、政府や電力会社から注ぎ込まれ、原発関係会社のお蔭で生活を作っている方が沢山いる「原発銀座福井」において高浜原発の再稼働を止める力があるとは思えません。

しかし、再稼働を止める可能性はあるのです。

高浜原発のUPZ範囲にいる住民数の4分の1くらいが福井県民で、4分の3くらいの方は、京都府民と滋賀県民なのです。

京都府民と滋賀県民の皆さんが、若狭湾の原発群の過酷事故が起きると福井と同様に大きな被害を受けると言うことを知って頂ければ、必ず「再稼働反対」と言ってくださるはずです。

「再稼働反対」との住民の声に押され、自治体首長も正しい行動をしていただけるものと思います。

それは、原発からの巨額なお金もしがらみも無いために「住民の健康と財産を守る」と言う正しい判断が出来るからです。

京都府民の皆さんや滋賀県民の皆さんが「再稼働反対」と言って頂けると圧倒的な力として表現できるのです。

その力が、京都や滋賀の自治体首長を動かし、政府や関西電力を動かす事になると思います。

私は、思っています。

今回の闘いの場所は、京都と滋賀であると。

福井でも出来る限りの取り組みは行いますが、たいして効果があるとは思いません。

しかし、京都や滋賀での動きが私たちに元気づけ、福井県民を正しい行動へ導いてくれます。

同時に、京都や滋賀の取り組みが福井県知事や高浜町長、そして関西電力を大きく揺り動かせることになると思います。

6、いま考えている運動

福井県の力は、強いものではありません。

でも、何としても再稼働はさせたくないという気持ちは、誰にも負けないつもりでいます。

今までの闘いは、「現地福井」と言われ福井に結集することが反原発運動だったように思います。

しかし、UPZが生まれたお蔭で、地域名ではなく事故の影響範囲で表現出来るようになりました。

UPZにより若狭の原発群の地元と呼ばれる地域が大きく増えたのです。

この増えたところの皆さんは、人口的には福井県など問題にしませんし、何より人間の心を捻じ曲げられる要因が何も無いのです。

ましてや琵琶湖が汚染されれば、それこそ関西一円に影響する大問題なのです。

福井県では、市民団体や労働組合、政党との共闘を模索しています。

今年の1月6日に、原子力発電に反対する福井県民会議が呼びかけ、平和センター、社会民主党、日本共産党の4団体の代表・事務局長の8名が集まり高浜原発の再稼働に全力で反対しようと確認し、後日事務担当者が集まり具体的活動を協議しました。

このようなことが京都府や滋賀県でも出来ないものかと思っています。

運動スタイルや考え方が違うものが、一緒に運動することは簡単ではありませんが、本当に原発を止めるためにはそれを正面にしないで、やれるところを一緒に行動したり、連絡を取り合えることなどから始めることが必要だと思っています。

フォーラム平和に若狭湾共闘会議(過去に県境を越えてできた組織です)のようなものが出来ないものかとお願ひしています。

7、ともに頑張ろう

私の反原発運動の期間は長いですが、燃えに燃えたのは青年部時代でした。

いずれも負け続けの寂しい闘いであったように思えるところもありますが、国家と闘いつづけたようなものですから勝てるわけでもないです。

その度に大きく挫折感を味わい「どうしたら勝てるのだろう。」と悩み続けた期間でもありました。

しかし、今考えるとこの闘いの中で多くの方と出会い、心を真っ直ぐに研ぎ澄ませ生きつづけた期間でもあったと思います。

戦術を練り、動ける力を結集した期間でもあったとも言えます。

今の反原発運動には、大きな味方がいます。

国民の声の過半数以上が「原発は、いらぬ。」と言っていることです。

この声は、運動をやっている者にとって何にも替えがたい大きな力です。

あとすることは、この声を力にすることだけです。それが出来ないのは運動している者の力不足だと言うことです。

力の弱い、福井県ですがこれからも一緒に頑張ります。